

「地震・雷・火事…」と言えば、一世代前の怖いものの代名詞である。

しかし、この三年間の試験業務において、これらと同じくらい怖いものを体験する事になった。それは、台風、具体的には、昨年の台風十号だ。



台風十号

小野田 一雄

平成十年度の試験日（十月十八日）の一週間前に、大型で非常に強い台風十号が台湾の南海上から北に進んでおり、試験日には九州に接近する旨の情報を得た。「最近の天気予報は、科学の発達（文明の力）に伴い、非常によく当たる」という大変複雑な心境にさせられた。

そんな事を思う間もなく日に日に、台風の動きを示すかのように沖縄県地方の方々から始まり九州本土、四国・中国、近畿、

東海・北陸、関東・甲信越地方の受験者、各協力機関、各都府県庁の主管課から「台風が来て警報等がでていても試験は実施するのか」「交通機関が止まって会場に行けない場合はどうすればいい。それでも試験は実施するのか」等々の電話による問い合わせが殺到し、本来休みの土曜日（試験前日）も協力機関の方々には出勤して頂き、当日まで対応に追われた。

台風は、勢力を弱めながらも試験前日、九州地方から西日本を縦断し、当日早朝には、山陰地方から日本海に入り、日本海側の本州に沿って北東に進み、当日午後には、北海道の西海上に達し温帯低気圧になった。結果的に当日の天候は、全国的にはほぼ良かった。だが、台風の影響でごく一部の地域においてであるが、強風により会場への公共交通機関が不通となり追加の試験を実施する事になってしまった。追加の試験日は、翌十一月十五日と非常に短い期間での作業は大変苦慮したが、無事終了し、安堵したことは強く印象に残っている。

また、今年度の試験が近づいた時に「台

風は来ないよね」と言った会話を、あちこちで耳にしたのは記憶に新しい。今年度の試験日（十月十七日）は全国的に穏やかな天候に恵まれ無事終了した。

今後、都に戻ってからの都政において、昨年の台風十号による貴重な体験を充分活かしていきたい、いや、活かすような事が無いことを強く望む今日この頃である。

（試験部試験第三課長）